

第4回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

1 開催日時

平成27年8月6日（木） 午後3時30分～午後4時55分

2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園2階 第1学習室

3 出席者

委員 6名

影山部会長、伊藤委員、小山田委員、折居委員、瀬川委員、高橋委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：商店街の再生

- ・ 商店街の魅力の向上や活性化について、市として具体的な構想はあるのか。現状を維持しているだけのように見えてしまう。
 - あくまで商店街に主体的にがんばってもらうための支援という位置づけである。
- ・ 各事業は商店街の希望でやっていることか？
 - そうである。一部のイベントなどは固定化されているものもある。
- ・ 商店街景観形成事業の成果はCであるが、今後の対策は？
 - 委託先への企画の充実を求める。街中を歩く人を増やしたいが、この事業自体は来客を誘引しないため、商業以外の分野の協力が必要。観光シーズンは人が来るが、それ以外のシーズンの対応が課題。
- ・ 商店街賑わいづくり事業において、新規出店後に継続できなくなったケースは？
 - 飲食店において、補助金が出るからと家賃が高い物件を借りてスタートし、補助金が終了すると経営が厳しくなってしまうケースが多々ある。
- ・ 成果指標「市街地における一日あたりの歩行者数」について、目標値の9,000人に対し実績は下がってきているようだが、まちなかの人口が増えないと商店街は衰退していくのではないか？商店街賑わいづくり事業の新規出店に関して、具体的な業種を示すなどしているのか？
 - 行政主導で商店街を形成する店舗を誘導するのは困難である。新規出店者への支援については、27年度から家賃補助をやめて、事業計画を金融機関から融資を受けられるレベルにブラッシュアップすることに力を入れ、継続的に支援するようにしている。まちなかを見てもらえる仕掛けやまちなかの人口を増やすことは必要だが、個々の商店街の努力では困難であり、人を呼ぶためにどこにどういう施設を配置するかということになると、立地適正化計画などまちづくりそのもので対応することになる。
- ・ 大迫駐車場の利用件数は把握しているか？
 - 未舗装の無料駐車場ということもあって把握していない。

- ・ 上町のトイレは良いが、双葉町のトイレは不衛生である。歩道もないようだが？
- 双葉町には商店街組合がなく、各事業補助金の交付対象にならないことが要因か。
- ・ 成果指標「市街地における一日あたりの歩行者数」の実績について、平成 23 年度から平成 24 年に 2,000 人増加しているが、その要因を分析できれば 9,000 人を達成できるのでは？
- 2,000 人増の要因は不明であるが、店舗減により商店街の維持そのものが困難となっているため、若い人の新しい店舗増への支援を行い、これを継続させるための支援を実施していく。
- ・ 北上市の例では、空き店舗に落語家を呼んだりしているようだが、成功事例の紹介・研究はあるか？
- 市としては実施していないが、個別の組合では実施しているようだ。

◆成果指標について

- ・ 施策の目指す姿「歴史と景観が調和した魅力ある商店街となっています」のためには、観光や都市政策の要素が大きい。「商店街の再生」という施策名だけをもって商業施策となっているように感じる。
- ・ 「購買指数」のように商店街の売上げが伸びていることを示す指標が必要なのではないか。(⇒これに対しては、難しいとの意見あり。)
- ・ 歩行者数のほかに、「車両数」も必要。商工会議所で通行量調査を実施しているため、把握は可能。また、「イベントの来場者数」は重要でわかりやすい指標である。これらの実績が向上して、商店街の売上げが減ったというなら、商店街の努力が足りなかったという分析になる。

◆事務事業について

- ・ 「商店街景観形成事業」は成果Cであり、成果向上のための対策が必要である。
- ・ 上町商店街の空き店舗対策として、賢治に関連する商品を販売する、又は賢治の名を冠した商店とするなど、新規出店に際し、市が一定の方向付けをすることは可能ではないか。
- ・ 商店街の主体的な取り組みを支援するだけでは現状を改革していくのは難しい。都市リノベーション寄りの事業が必要か。

◆施策の総合的な評価について

- ・ 花巻市独自の要因が分析されていない。少子高齢化や人口減少などは全国共通の要因である。4 地域の違いもあるはずなので、4 地域ごとの課題を示したほうが良い。
- ・ 商店街の能動性を引き上げていく、又は市と商店街が一緒にやっていく、という部分が見えない。
- ・ 観光など他分野との連携を図る必要がある。

◆記載内容について

- ・ 施策の総合的な評価の意見の要因分析や課題の方向性を充実させるべき。特に、4 地域ごとの分析が重要。
- ・ 総合評価に、新規出店者に対する家賃補助をやめて経営に重点を置いたことなどを記載すべきである。

◆その他

- ・ 花巻地域の場合、宮沢賢治関連だけでなく、花巻城跡などほかのものも開拓したほうが良いのではないか。
- ・ 観光施設とは別で考えなければならないから難しい。あくまで個々の事業主の利益にかかわる商

業施策であり、市が誘導すべきものではない。

- ・商店街の主体的な事業に対する支援（補助）だけでは、「市街地における一日の歩行者数」9,000人の達成は難しいのではないかと。

- ・人を呼ぶにはネームバリューが必要になるが、その観点からいくと、観光施策となる。案内板設置等の観光施策と商業施策はやはり別物である。

- ・市外の企業や郊外の大型店には補助しないのだから、言ってしまうと、中心市街地の商店をえこひいきする施策である。結局は商店街のやる気があるかどうかにかき集約されるのだが、それが見えてこない。見えるようにするにはどうしたらいいものか・・・。

第4回行政評価委員会会議録（暮らし部会）

1 開催日時

平成27年8月20日（木） 午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所

花巻市花城町1-47まなび学園3階 第5学習室

3 出席者

委員 6名

鈴木部会長、佐藤委員、尾美委員、戸来委員、高橋委員、西村委員
事務局、施策主管課

4 質疑

◆施策：汚水の適切な処理

- ・ 公営企業会計への移行を進めているようだが、移行に関して人口減少に支障はないか？
→ 公営企業会計の収入は使用料で賄っているため、人口が減少すればその分使用料が増額することになってしまう。増額しないように進めていかなければならないと考えている。
- ・ 高齢化や経済的理由によって下水道処理設備への接続を見合わせている人たちへ、どのような対応を考えているのか？
→ 分割払いができるようにできないかと考えている。また、融資あっせんがトイレの水洗化のみを対象とし、4年間で限度額約30万円なのだが、台所への接続等へも範囲を拡大することも併せて、検討している。
- ・ 農業集落排水と公共下水道に料金の差はあるのか？
→ 農業集落排水と公共下水道は同額だが、浄化槽は異なる。集合処理は同じで個別処理は異なっている。
- ・ 「4 施策を構成する事務事業一覧」の中の1-1及び1-2の直結度がCとなっているのはなぜか？
→ 整備を中心とした成果指標となっているため、水洗化率は直接関係ないと判断し、直結度をCとした。
- ・ 良質な性質を維持するという観点からすれば、市が責任を持って維持管理し、市設置をこれからも続けてもいいのでは？
→ 全国的に個人設置の維持管理が悪いといわれている。個人の浄化槽維持管理についての指導は県の業務であったが、花巻市は権限移譲を受けているため、整備や維持管理等は下水道課で行っている。

- ・ 汚水処理人口普及率と水洗化率のどちらを進めたほうがいいのか？
- 汚水処理人口普及率の岩手県下1位は、盛岡市。人口密集地を整備すれば普及率は格段に上昇する。水洗化した人口を県内人口で割った水洗化人口率は、花巻市が76%であり、岩手県全体では69.6%である。この割合を上げることが大事である。
- ・ 浄化槽未設置者への対応はどのようになっているのか？
- 下水道課としては手が出せない分野。生活環境課が担当課となっている。

◆成果指標について

- ・ 水洗化率の中に含まれていると思うが、集合処理区域外の戸別浄化槽の設置について個別に抜き出し、公共と戸別に分けて成果指標としてもいいのではないか。
- ・ 戸別浄化槽の設置については新たな成果指標とするのではなく、そのことを分析したうえで、「3 成果指標の達成状況」を記載することが望ましい。

◆事務事業について

- ・ 整備という観点から水洗化促進事業の直結度をCとしているのであれば、浄化槽事業やし尿処理事業の直結度もAではなくCとなるのではないか。判断基準が定まっていないように思える。
- ・ また、直結度がCという事務事業はどのようなだろう。

◆施策の総合的な評価について

- ・ 問題点等はなし。

◆記載内容について

- ・ 説明をもう少し増やしてほしい。説明が足りないように感じられる。目指す姿や現状、課題の欄は特にわかりやすく記載してほしい。
- ・ 「5 施策を構成する事務事業の検証」欄が空欄となっているが、「3 成果指標の達成状況」欄で達成度がBやCとなった理由を分析し、この欄に記載すればいいのではないか。

◆評価シートの構成・項目について

- ・ 施策の目指す姿の記載内容がわかりにくい。もう少し説明を加えてほしい。

第4回行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

1 開催日時

平成27年8月18日（火） 午後1時30分～3時50分

2 開催場所

花巻市花城町1-47まなび学園3階 第3学習室

3 出席者

委員 5名

堀籠 部会長、福盛田 副部会長、中村 委員、木村 委員、佐々木 委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：地域づくりへの参加促進

- ・山の駅・昭和の学校は、旧古代村のような使い方（小学校等による宿泊体験）の検証は行っていないのか？
→現在は、駐車場の舗装や校舎内トイレの洋式化を行い、建物内に昭和を思い出す物（テレビ等）を展示している状況。
- ・山の駅・昭和の学校整備事業について、施策評価シートでは施策への直結度をBと評価しているが、地域の拠点としての活用等を考えると直結度はA判定でよいと考える。
- ・展示については集客につながっていないのでは？リピーター確保は難しいだろう。展示以外の活用についても検討すべき。
- ・婚活支援団体助成事業については、（個人的には）地域づくりとかけ離れているように思う。また、施策評価シートでは、成果の向上を図るため「婚活支援を行っているカップルが婚姻した場合に、支援団体へ補助金を交付する制度を構築するなどの工夫が必要」と言っているが、金で釣るような方法で本義を忘れて成果に走ってしまう可能性があるのではないかと考える。
- ・地域元気フェスティバル開催事業については、「H27からの継続開催は行わないこととした」とのことだが、正解だと思う。他のコミュニティとの交流は大事だが、スポーツとはいえ勝ち負けを競う場は不要だと思う。まずはコミュニティの足元を固めることが大事。
- ・（別意見として）地域元気フェスティバルは2,000人もの参加があった場であり、この企画がなくなるのはもったいない気がする。各コミュニティは人集めに苦勞していたようだが、苦勞することなく楽しんで行える事業であれば・・・何か方法があるかも。

- ・コミュニティ交付金は地域に配分するのではなく、基金造成を行うなどして地域づくりに必要なものに充てていく方法もあるのではないかな？
- ・市民憲章については、旧3町に浸透していないと感じる。もっとがんばって推進するべき。
- ・コミュニティ助成事業については、各コミュニティが自分たちの予算で実施するもの？

→宝くじ助成事業で、市から申請団体（郷土芸能団体など）に補助金交付するもの。

◆成果指標について

- ・目指す姿に沿ったものとなっているが、目標値の根拠が不明。根拠を明記する必要があると思われる。
- ・これまでとは違った動きを見ることができる指標（具体には思いつかないが・・・）があってもいいのではないかな？例えば振興センター以外での地域づくり活動も網羅した指標とか（実際には網羅することは難しいと思うが）。
- ・達成状況については的確な分析となっている。

◆事務事業について

- ・地域元気フェスティバルのように2,000人も人が一同に集まる場はあってよいと思うが、コミュニティ同志がスポーツで競うというのではなく、何か別の交流を考えてはどうか。地域づくりへの参加を促進する何かがあれば良い（工夫してみしてほしい）。
- ・婚活支援団体助成事業については、目指す姿の実現に貢献しているか疑問である。施策への直結度をAとしているが再考すべき（Aではないだろう）。
- ・市民憲章推進事業については、そもそも必要か？市民憲章が浸透していないと感じる。事業実施するなら、市民憲章だけでなく「市の花鳥木」や「市民の歌」も併せて普及啓発していったほうが、施策の目指す姿の向上につながるのではないかな？

◆施策の総合的な評価について

- ・今後の方向性として「～課題解決に向けて話し合う場に若い世代のファシリテーターやコーディネーターが存在するよう養成し、～」とあるが、養成しても同世代の一般市民がそれを受け入れるか？「何かをしてあげますよ」的なものは今の時代通用しない（受け入れられない）のではないかな。市民の地域活動参加に効果は望めないと思われるので、今後の方向性は考え方を考える必要があると思われる。

◆記載内容について

- ・わかりやすい記載内容となっている。